

「コミュニティ・スクールについて」の研修会（教職員向け）

鹿沼市では、学校の依頼を受け、コミュニティ・スクール推進担当が、学校に出向いて研修を行っています。

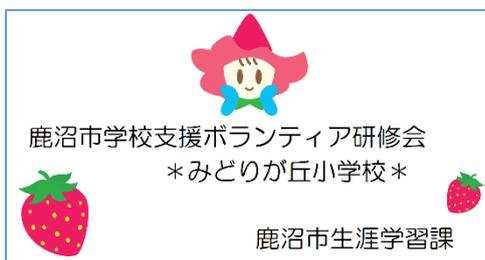
令和3年度

●加蘇地区〈加園小学校・加蘇中学校〉（8月）



加園小学校と加蘇中学校は、合同でひとつの学校運営協議会を立ち上げるということで、教職員研修も合同で行いました。コミュニティ・スクールの研修の前に、やはり2校合同で、児童・生徒の実態、地域の実態、育てたい児童・生徒像などの観点からKJ法で整理・分析をする研修を行っていました。まさに、学校運営協議会でも同じ手法が有効なので、是非立ち上げにあたってこれを活用するとよいとアドバイスしました。先生方は、普段から小中交流ができていたので、活発な研修となりました。KJ法で分析した加蘇地区の子供たちの素直さが生きるコミュニティ・スクールの推進を願っています。

●みどりが丘小学校（8月）



みどりが丘小学校は、ボランティア活動が盛んです。組織化もされていて、素晴らしい取組が多々なされています。5月には、学校の要請で、ボランティアの方々向けの研修も行いました。

←

8月の教職員研修会では、校長先生自身が資料を準備し、前半の研修を行いました。後半は、担当が行いました。校長先生の説明が素晴らしく、主体的に取り組んでくださっている様子がよくわかり、大変ありがたく思いました。組織的な構想もしっかり立ち上がっていることにも驚きました。コミュニティ・スクールを成功に導く鍵は、それぞれが「自分事」としてとらえ、主体的に動くことです。みどりが丘小学校の推進が楽しみです。

●東中学校（9月）



東中学校は、令和5年度にコミュニティ・スクールを導入します。それに先んじて、職員研修をとの依頼を受け、研修に出向きました。

東中学校は、これまでも地域と連携・協働して、様々な活動を行っていました。コロナ禍で、それらの活動に制限がかかり、歯がゆい思いをしています。それらを含め、熱心に質疑が行われました。また、コミュニティ・スクールを成功に導く「当事者意識」をどのように育てるかについても議論され、有意義な研修会となりました。鹿沼市では、すでに北犬飼中学校と南摩中学校がコミュニティ・スクールを導入していますが、前例を参考にせず、雑談の中で地域の課題を探る方が有意義であると廣瀬隆人先生からアドバイスをいただいていることもお伝えしました。

●栗野中学校（11月）



この日は、一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事である廣瀬隆人先生に講師を依頼し、教職員に向けての研修を行いました。「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて」と題し、分かりやすくお話いただきました。

「学校は、特別活動の生徒会（児童会）活動や学校行事等を通して、子供たちに地域づくりの基礎を既に作っている。後は、良質な地域の大人との出会いが大切になる。地域づくり（コミュニティ・スクールも）は、知人や友人を増やす活動である。」といった、廣瀬先生ならではの視点からたくさんの示唆を与えていただきました。

●池ノ森小学校（1月）



この日は、コロナ感染拡大のため、オンライン研修となりました。小規模校での取組についての質疑などが熱心に交わされました。池ノ森小は、早くから放課後子ども教室の取組が行われ、保護者が運営するモデル的な地域です。また、学校が依頼しなくても、地域の方が気づいたことを自主的に支援して下さるということもお聞きしています。池ノ森小は、すでに地域との連携・協働ができていますので、今までの活動を継承しながら推進してほしいとお伝えしました。

令和4年度

●北小学校（7月）



北小学校は、令和元年度からコミュニティ・スクールが導入されました。鹿沼市内では、最初に導入された3校のうちのひとつです。北小学校は事務局長を地域住民が担っています。この日は、学校教育課の指導主事と事務局長のふたりが講師となって研修を行いました。

「コミュニティ・スクールの制度説明」を指導主事が、



地域に開放している「集会室」の壁面にこのようなコーナーが設けられていました。

「北光コミスク・ねっと（北小学校のコミュニティ・スクールの名称）の活動紹介」を事務局長が行いました。研修後アンケートの自由記述欄から感想を紹介します。

- ・学校にたくさん協力してくださる、一緒に活動してくださるのがとても心強い。
- ・ミシンの調整は、本当にありがたい。そして、普段当たり前に私たちが活動できるのは、地域の方の支えがあるからだと感じた。
- ・コミスクの活動を具体的に知ることができ、素晴らしい協力・協働が行われていると実感し、とてもありがたいことだと思った。
- ・いろいろな活動が行われているとは思っていたが、改めて今日話を聞いて、北小のコミスクのすばらしさを実感した。
- ・今回、北小でのコミスクの取組について詳しく知ることができ、私も知らなかったことをいろいろ知ることができてよかった。是非、子どもたちにも活動について紹介する機会を設けたい。いつも北小の児童・教職員のために活動していただき感謝の気持ちでいっぱいだ。
- ・もっと地域の方と関わっていききたい。
- ・学校と地域のつながりを大切にしていきたい。

コミュニティ・スクールについては、地域の方の理解が必要ですが、教職員の研修もとても大切です。

●清洲地区〈清洲第一小・清洲第二小〉（9月）



清洲第一小学校と清洲第二小学校は、合同でひとつの運営協議会を持ちます。清洲地区学校運営協議会は令和5年度からの導入です。この日は、地域にある「清洲コミュニティセンター」で研修を行いました。学校と地域の行政を担う人々が接点を持つことは大切なので、このように研修の場所も工夫するといいたと思います。研修の中で、地域のすばらしさをあげてもらったところ、以下のような回答でした。

〈地域の良さ〉

<p>【人材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの見守り、除草等のボランティア ・お囃子の支援 ・オヤジの会 ・ボランティアきよす会 	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然 ・米どころ(米がおいしい) ・貴重な文化財(医王寺等) ・地域行事
<p>【関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が協力的 ・保護者が協力的 ・地域間の挨拶がある 	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が子供たちのことをよく考えている ・自治会長が清掃をしてくれる地区がある ・お囃子が素晴らしい

特に、人材の欄を見ると、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の夢が広がります。教職員が、地域の良さを知り地域の方々とつながることはとても大切です。（清洲は、お米がおいしいと皆さん口をそろえて話していました。）この地域の良さが会話のきっかけとなり、子供たちや地域の方々とのつながりも広がるのではないかと思います。